

2013年1月15日

日本民教連 2013年1月代表者会

【学習会】

「社会科で学ぶ震災と『原発』問題」

滝口正樹さん（板橋・第3中）

歴教協

【議題】

- 1) 12月2日（日）、第26回日本民教連交流研究会に関わって
 - ◎全体会の感想
 - ◎分科会の報告・討議・感想等から
 - ◎参加人数
- 2) 『民教連ニュース 2013年1月号』
 - ・名刺広告応募数
- 3) 『民教連ニュース 2013年3月号』の編集企画
- 4) 代表者会の学習会講師
 - ◎2月 上石正明さん
- 5) 6月合同研究集会企画
- 6) 財政部より
- 7) 「2012年夏季研究集会調査」の集約状況
- 8) 世話人の拡充について

報告未提出団体

学力研
回生連.

第26回 日本民間教育研究団体連絡会 交流研究集会 受付票

お名前	
住所	〒 E-mail Tel Fax
所属 (○で囲んでください)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 民教連加盟団体 (a 民教連担当者 b 団体会員 c 賛助会員) 団体名 () 2. その他の団体 3. 一般 4. 学生
資料代	1000円 (領収書の必要な方はお申し出ください)

第26回 日本民教連交流研究集会のまとめ

1. 参加者 29団体 他団体等人 学生3人 計106人
2. 全体会 講演「死の灰あびたマーシャルの人びとは、いま
～核なき明日への福竜丸の航海とともに」
第五福竜丸展示館主任学芸員 安田和也さん
合唱「生命の木、空へ」より 音楽教育の会の皆さん
3. 分科会 6つ レポーター 27人 (28人の予定のところ第3分科会で一人欠)
 - (1) 読みの本質を考える 11人
 - (2) 一人ひとりが輝く芸術教育 38人
 - (3) 科学と技術教育実践講座 12人
 - (4) 震災・原発事故後の健康と安全 16人
 - (5) 生きる力を育む 11人
 - (6) 仲間と共に育つ 12人
4. 会場・準備等
会場……………和光小学校
音楽室、会議室、理科室、教室4
会場準備……机、いす、プロジェクター、スクリーン、カセットデッキなど
受付準備……資料袋、(全体会の会場入口)机、いす、書籍等の販売用机、靴置き用ブルーシート
表示……………会場案内、分科会表示等、
その他……………昼食は各自用意
5. 反省、来年度に向けて
 - ・午後からの分科会での受付 意識して取り組んだのでよかった
 - ・分科会での受付用紙も来年は作りたい
 - ・レポーターに資料代を渡す 参加費はもらう
 - ・間違いを防ぐためレポート報告者は民教連の用紙に記入したものを必ず受け取る。電話等で済ませない。
6. 全体会・分科会のもち方について
 - ・時間が足りない、レポートが多すぎるという声がある
 - ・分科会のグループの組み方は難しい
7. 参加体制
 - ・各団体の実践を通しての交流の場 サークル員の参加を第一に
 - ・各団体で年間計画に入れる
 - ・チラシ、ホームページの活用
 - ・学生に呼びかけたい

8. 分科会の記録より 特徴的なこと ・次回に向けて

第1分科会 4, 5, 6年生～中2という思春期にかかわる時期の子どもの成長をどう考え、どう授業、話し合いで考えることができた点は良かった。読み、話し合い、共有するものがある部分が大切になろう。

・4つのレポートは多かった。十分な話し合いができず、提案者に申し訳なかった。

第2分科会 子どもの内面を見据えての授業作りを工夫していらっしやる様子がうかがえました。和やかにじっくりと話し合えた集会でした。

第3分科会 しめなわづくり等ものづくりの授業で「学力」をつける時間がさかれるの心配？ 本当の「学力」とは何かの議論 数教協の「1あたり量」は理科教育ではどういう意味あるのか疑問がだされ、時間切れで終わる。

・レポート6本は時間的に苦しい

第4分科会 子どもたちを防災計画に参加させることで子どもの目線からの危険箇所が見つけれられる生徒の意見から討論まで持つていくには時間の問題がある

第5分科会 レポート4本とも大変に充実していました。レポート報告に時間が必要で議論する時間が不足でした。生徒を育むことについて、社会、経済、体育（保健、健康）進路の面から報告され、レポート間のつながりが不足していました。それぞれのレポートが実践に結びついており、事実に基づいており、レポートとしてもすぐれていた。

第6分科会 4本のレポート発表毎に質疑応答が行われ、小学校4年の詩の実践、中学校のグループ・エンカウンターを取り入れた住居学習の模擬授業実践、中学校の「絶対に怒らない指導」実践、高校（私立）の性の多様性にも着目した総合「性と生」の授業実践、の各々の報告だったが、子どもたち個々の学習意欲を育む指導、学級づくりという共通の指導面では、小、中、高の系統性があった。

・性教協は、はじめての第6分科会であったが、良い分科会構成だった。

9. 感想より

全体会

・オープニングから、子どもたちの姿が見られてとてもいいスタート

安田さんの講演、今とどんな風につながるのか、予測できなかったのですが、なんと、今の課題、和平（?）、震災、原発問題とのつながりが明確になりました。安田さんの資料、史実、事実に基づいたお話、すばらしかったです。

・①和光の子どもたちの踊りに間に合うようがんばって来てよかったです。

②安田さんのお話、密度が濃く、すばらしかったです。

③②の内容と歌が重なって、内容が伝わってきてよかった。

・今、大勢の人たちに聞いてほしい内容でした。具体的な事実に基づいた歴史の上に立ってのお話が、今の日本のこれからを考えていく上でとても大事なことだと強く思いました。

「生命の木、空へ」の合唱に心うたれました。

第1分科会

・作文の実践、中学の実践、ヤモ… どの実践も力が入ったものでした。ありがとうございました。

・子どもの読み、感想を相互に読み合い、考え合うことはとても重要であり、関係づくりを広げていく点でも有効である。

「イースター島にはなぜー」の授業通信は説明文の読みの力育てのためにも大事である。

第2分科会

- ・音楽・美術・演劇などが一緒に交流する意味が、今年はとてもよくわかった。発表者の深い考えや思いが授業にこめられていて、いろいろなことを学ぶことができました。とても良い会でした。
- ・5人のレポーターの発表が充実していました。子ども一人ひとりの内面に働きかけ、その心のうごき、表現を大切にしていく…ということで、共通するものがありますね。自分が本気で好きでたのしくなれるもの、自分が感動するものが子どもに伝わること、そういう力のある教材をみつけていくこと、大切ですね。若い多くの教師に、こういう学びの場で出会ってほしいと願います。

第3分科会（感想なし）

第4分科会

- ・発表5本はあまりに多すぎの感がある
どれも内容は重たくじっくり実践方法も聞きたいからだ
一人ひとりの発表を大切にするためにも十分検討いただきたい
実践交流から子どもの感想を聞くことで、今の子どもの考えや現在の社会の見方を知ることができた。
このような交流からの討議の時間が欲しかった。
- ・様々な「フクシマ」に関する実践が報告されていて、とても学ぶことができました。
原発労働者の方々についてまた考えるきっかけになった。
提案者の方々ありがとうございました。

第5分科会

- ・どんな国民が「教育」の中で育っていくことが望ましいのかが確かめ合える分科会だったと感じています。「生きる力」として、どんな「力（学力）」をつけるかについて、もっと議論できる時間があれば良かったと思いますが、報告が充実していたので、仕方ないと思います。
- ・多様な角度から生きる力を育むことについて学ぶことができました。子どもを一人前の大人としていくとくみは大変で、教育の課題の大きいことを実感します。

第6分科会

- ・4本のレポートは、それぞれの領域独自の研究をしているわけですが、今日の分科会では、そのわくをこえて、大切なことを学べました。いずれも、子どもの現実、要求、願いに即していること、そして、事実から出発し、事実に沿って授業等が進められているからだと思いました。また、最も大切なことは、学ぶ主体にきちんと人間として返している、という実践だということです。
- ・難しくても勉強してみたいと思いましたが、とても楽しく勉強することができた。実際の教育現場でおこっていることを教師の視点からよりよくするための指導を知ることができて本当によかった。一つ一つのレポートが先生方の熱意があるもので、とてもおもしろかったです。4年生が作文に対して抵抗がないのはすごいと思う。実習先が4年生だったが、作文が苦手な子も多かったので、参考にしていきたい。

1	飯田 哲	1. 絵の会	56	藤木 勝	13. 産教連
2	藪内 好	1. 絵の会	57	大沢 達一	14. 児言研
3	臼井 ひろみ	3. 音楽教育の会	58	大場 博章	14. 児言研
4	大石 芳枝	3. 音楽教育の会	59	山岡 寛樹	14. 児言研
5	落合 秀子	3. 音楽教育の会	60	三輪 聡	14. 児言研
6	菊池 實生	3. 音楽教育の会	61	関口 昭男	15. 新英研
7	倉持 侑子	3. 音楽教育の会	62	塩沢 宏夫	18. 数教協
8	古賀 アヤ子	3. 音楽教育の会	63	木村 伸子	20. 制度研
9	小林 優	3. 音楽教育の会	64	篠崎 郁子	20. 制度研
10	青木 可奈子	3. 音楽教育の会	65	古澤 絵美	20. 制度研
11	白石 敦子	3. 音楽教育の会	66 贊	清水 徳人	24. 商教協
12	高田 敏子	3. 音楽教育の会	67	眞嶋 康雄	24. 商教協
13	塚田八代子	3. 音楽教育の会	68	草刈 英郎	25. 全進研
14	天水 早苗	3. 音楽教育の会	69	志賀 廣夫	26. 全生研
15	中野 恵子	3. 音楽教育の会	70	守屋 裕次	26. 全生研
16	中山 三恵子	3. 音楽教育の会	71	安達三子男	30. 全民研
17	野崎 恭子	3. 音楽教育の会	72	杉浦 真理	30. 全民研
18	野路 美保	3. 音楽教育の会	73 贊	戸倉 信一	34. 地教研
19	樋口 清子	3. 音楽教育の会	74	海東 達也	34. 地教研
20	平野 容子	3. 音楽教育の会	75	神尾タマ子	36. 演教連
21	堀口 明子	3. 音楽教育の会	76	佐熊 郁代子	36. 演教連
22	松村 章子	3. 音楽教育の会	77	高崎 彰	36. 演教連
23	森谷 直美	3. 音楽教育の会	78	近藤 孝	37. 日作
24	守屋 みさこ	3. 音楽教育の会	79	横田 文夫	38. 日生連
25	柳沢 久子	3. 音楽教育の会	80 贊	岩井 幹明	39. 文教連
26	山田 慶子	3. 音楽教育の会	81	大山 みよの	39. 文教連
27	山野 達	3. 音楽教育の会	82	望月 理子	40. 日文協
28	山本 尚子	3. 音楽教育の会	83	森本 真幸	40. 日文協
29	岩間 滋	4. 科教協	84	谷森 櫻子	42. 性教協
30	合馬 和章	4. 科教協	85	水野 哲夫	42. 性教協
31	佐々木 仁	4. 科教協	86	中村 得裕	45. 進める会
32	前田 幹雄	4. 科教協	87	宮川 義弘	45. 進める会
33	大坂 省子	5. 家教連	88 贊	青木 峰子	46. 民舞研
34	斉藤 弘子	5. 家教連	89	菊池 牧子	46. 民舞研
35	中澤 美智代	5. 家教連	90	斉藤かいと	46. 民舞研
36	上原 謙市	6. 学力研	91	都築 豊子	46. 民舞研
37	上原 富子	6. 学力研	92	中川みどり	46. 民舞研
38	中田 満明	6. 学力研	93	東田 晃	46. 民舞研
39	神尾 佳世	7. 同志会	94	白鳥 晃司	47. 歴教協
40	川畑 洋子	7. 同志会	95	滝口 正樹	47. 歴教協
41	児玉 望	7. 同志会	96	金子 眞	
42	染田 陽子	7. 同志会	97	中村 源哉	和光小 副校長
43	横田 誠仁	8. 教科研	98	鈴木 達雄	法学館憲法研究所
44	尾高 達	9. 技教研	99	黒田 千代	高校生平和のつどい
45	川俣 純	9. 技教研	100	得丸 浩一	全教 京都民教連
46	小嶋 晃一	9. 技教研	101	中村 雅子	
47	柴沼 俊輔	9. 技教研	102	江波 英之	和光大学
48	長谷川雅康	9. 技教研	103 学	西村 英莉	
49	山本 剛大	11. 手労研	104 学	小川 裕大	國學院大学
50	上石 正明	12. 子全協	105 学	米倉 一輝	國學院大学
51 贊	石井 達	12. 子全協	106	眞嶋 啓子	眞嶋氏付き添い
52	五島 明子	12. 子全協			
53 贊	中原 正木	12. 子全協			
54	金子 政彦	13. 産教連			
55	根本 裕子	13. 産教連			

106人 賛助会員 6人
学生 3人

第 26 回日本民教連交流研究集会 感想

全体会

1. 講演、とても素晴らしかったです。核を進めたアメリカがいかにマーシャルの人々、ヒロシマ、ナガサキの人々を不当に扱ったのか、改めて、理解できました。怒りをもってこの問題を学び直したいと思いました。ありがとうございます。
2. 第 5 福竜丸が日本中でさわがれた時のことを再び国民の問題として原発 0 のたたかいがつづけられている今、安田先生の講演はとても有意義でしたし、このことを皆に伝える行動が求められていると思いました。久保山さんの福竜丸一せきのことが巨大にとり上げられましたが、その他に同じ被害にあった多くの漁船のことはかげにかくれたことは後になって知りました。あまりにもたくさん問題をかかえた日本の状況の中で私達のたたかいはねばりづよくつづけられなければと思います。
3. 安田和也さんのお話は、ヒロシマ、ナガサキ、フクシマで起きている事とつながって、心に響きました。
4. オープニングから子どもたちの姿が見られて、とてもいいスタート
安田さんの講演、今とどんな風につながるのか、予測できなかったのですが、何と、今の課題、未来、震災、原発問題とのつながりが明確になりました。安田さんの資料、史実、事実に基づいたお話、すばらしかったです。
5. 安田さんのお話はすばらしかったです。もっと多くの人に聞いてもらいたかった。今のこの時期に安田さんのお話の内容はピッタリでした。そして、続いての「生命の木 空へ」の合唱もすばらしく、感動しました。林光さんの音楽がぐんぐん胸にせまってきました。
6. 今大勢の人たちに聞いてほしい内容でした。具体的な事実に基づいた歴史の上に立ってのお話が、今の日本のこれからを考えていく上で、とても大事なことだと強く思いました。
「生命の木、空へ」の合唱に心うたれました。
7. 核兵器や原子力発電がどういう経過で持ちこまれてきたのか。そのもとで、どれだけの人苦しめられてきたのか。よくわかるお話でした。今こそ即原発 0 を実現するために事実を広めることが必要だと思います。林光さんの願った調和の世界を実現するためにも、林光さんの音楽を生き生きと演奏していきたいと思えます。
8. 和光の子どもたちの踊りに間に合うようがんばって来てよかったです。
安田さんのお話、密度が濃く、すばらしかったです。その内容と歌が重なって内容が伝わってきてよかったです。
9. 知らない事がたくさんありました。美しい地球を住み辛いところにしてしまった「原発」に改めて怒りを覚えました。おろかな歴史をくりかえさないようにしなくてはと思います。
10. 安田さんの話、とても分かりやすく、本当に 知らないことだらけでした。まず、自分が、知っていくこと、そして伝えていくことの大切さを改めて想いました。
11. 核（原子力）の問題の今日的な課題をわかりやすく、重要なお話でした。質問の時間がほしかった。もっと日本中でお話していただきたいものですね。
12. 知らなかったことがたくさんありました。断片的にしか知らないことが、流れとして総体としての話をきけ、よかったです。
13. 安田さんの話はとてもわかりやすく引きこまれた。系統だった内容で、ひとつひとつ資料をかみしめて学び、まわりの人にもその内容を広めていきたい。
14. 講演の内容が大変素晴らしく、勉強になった。音楽教育の会の合唱も、林さんの曲が素晴らしく、合唱も大変良かった。
15. 安田さんのお話、とてもよかったです。人を人とも思わないアメリカの（日本の）政治をすすめる側のひどさ、マーシャルの人々～福島の人々につながるなど思いました。
16. 安田さんのお話はにせものの平和の中において、米国の主導で、戦争の状態の中にいるのだと実感し、心がみだれてきました。調和の海をと林光さんがたくされ、希望を持ち続けていかねばと思います。

17. 安田さんの話を聞くのは2度目ですが、今回もしっかり聞きました。その内容に今回も又今まで何も知らずにいたことをはずかしく思いました。国民一人一人がこの事実をきちんと学ぶべきだと思いました。ひとつの事がいろいろな事とからみあいながら歴史の中で忘れられていくようなことは、あってはならないと思います。日本人であることは、今日の話を含め、核についての知識をきちんと知っておかなくてははいけませんね。ありがとうございました。
18. 和光小1年生のアイヌのおどりを生で見る事ができた。福竜丸館長さんの長時間の講演と林光さんの組曲の合唱に涙しました。
19. 断片的な知識はあったが、マーシャルの方々の被曝の様子やアメリカのやり方がよくわかった！とてもわかりやすい講演でした！
20. 近来になく引き入れられるよい講演だった。多岐にわたる内容で、もっと聞きたいと思った。どこかで機会を得たい。
21. かわいいアイヌの踊り、原子爆弾の話、林光さんの作られた合唱、すばらしい全体会でした。ゆっくりもう一度、家に帰ってレポートを読みなおしたいと思っています。勉強になりました。
22. 教科書では学べない事実を初めて知ることができました。
23. 大変よく伝わってくる話でした。それだけに一層、怒りも増してきました。時の流れにのまれないよう、したたかに平和をつくり上げていかねばと思いました。

第1分科会

1. 作文の実践、中学の実践、ヤモ…どの実践も力が入ったものでした。ありがとうございました。
2. 子どもの読み、感想を相互に読み合い、考え合うことはとても重要であり、関係づくりを広げていく点でも有効である。「イースター島にはなぜ〜」の授業通信は説明文の読みの力育てのためにも大事である。

第2分科会

1. 和光小の民舞の実践について興味ぶかく聞くことが出来ました。よい先生たちが多いですね。
2. 音楽の提案、高田さんの子どもへの暖かな眼、子どもたちのやさしい育ち、うれしく思います。他の絵画、民舞の方々の発表が楽しく、まだまだ続けてきていたかったですし、司会が軽やかに楽しく進められ、皆の笑いにつつまれて会が終わりました。これはやはり交流研ならではでなかったかと思いました。関係の方々に感謝申し上げます。私は音楽の合唱で参加しました。存分に歌い満足しました。がんばりましょう。
3. とにかく運営がむずかしいと思う。藪内さんが時間をくぎってやったのがとてもよかったと思う。「感性」の問題は今日の指導要領などではうすまっているが（もしくはあいまい）もっと教育の中心にしなければ。若い教師たちの感性に少々「問題」を感じることもあるので…
4. 子どもたち、一人ひとりの表現に向きあっている実践から勇気と希望をもらいました。
5. 7つものレポート、厚い内容、交流十分できました。子どもの内面を育てる力が芸術には大いにあること。境界線もないこと、あらためて思いました。中学の美術、偶然見本。若い先生も子どもたちのすてきな部分を沢山引き出して、ステキでした。宮川さん、さすが。今の未来の教育の問題点までめぐり出しました。
6. 5人のレポーターの発表が充実していました。子ども一人ひとりの内面に働きかけ、その心の動き、表現を大切にしていこう…ということで共通するものがありますね。自分が本気で好きでたのしくなれるもの、自分が感動するものが子どもに伝わること、そういう力のある教材をみつけていくこと大切ですね。若い多くの教師にこういう学びの場で出会ってほしいと願います。
7. 今日のような進め方ならば（時間が余ったので）あえて、質問に限った時間を設定せず、感想も含めて発言させてほしい。司会の方がしゃべりすぎ、方向を作りすぎと感じました。発表された内容は美術、民舞、音楽にそれぞれ芸術教科としての大事な内容を含んでおり、こどもの、人として豊かに育つ方向をもった発表でした。せめて30分くらいは聞きたかったです。

8. 音楽・美術・演劇などが一緒に交流する意味が今年はとてもよくわかった。発表者の深い考えや思いが授業にこめられていていろいろなことを学ぶことができました。とても良い会でした。
9. ・音楽と民舞がまるで同じと思いました。
・中学校の美術の先生の実践、それぞれすばらしかった。
・演劇は、私がつたない指導でやっていたときも、それを取り入れて実践すると子どもが賢くなって不思議に思っていたんですが、演劇って子どもが育ちますよね。若い人たちにどうやってこれらを伝えていきましょう…
名司会、藪内さんに拍手!!
10. ひっこみじあんな子がいい教材にゆり動かされて独唱した音楽の話、技術に自信のない子が自画像に向き合って自分の内面を見つめ素敵な作品を仕上げていく美術の話、教師が思いっきり楽しんでいくことで子どもを動かしていく民舞の話、すべてつながっていました。芸術の深さにふれることができました。
11. 他の分野の話をしけること、とても勉強になるし、勇気を、励ましを、たくさん子どもたちを輝かせる実践をこれからも楽しみにしています。
12. どの発表もすばらしいの一言。若い方々にぜひ見て聞かせたかった。おいしい～
13. それぞれに子どもと向きあった実践がきけて自分自身エネルギーをいただいた。
14. 芸術教科は、共通しているところ、重なるところが多く、聞いていておもしろかった。どの教材でどう子どもを育てるか、そして先生が、大好きで日々とりくんでいるというのが5つの教科から伝わってきた。
15. 他教科の実践にふれる貴重な機会であることはもちろん、自分が担当する教科でも専門的な内容を相談できる機会は少ないので、本日は発表を通して多くを学ばせて頂きました。ありがとうございました。
16. それぞれの発表の内容がとても分かり易く、聞いていて楽しかった。司会の進め方も柔軟で良かった。
17. たくさん実践を見せていただいて次からの意欲が増しました。これからもよりよい実践を自分を励ましてがんばりたいです。
18. 5つのレポート、子どもの心に働きかけるそれぞれの仕事でした。民舞研「心があふれ出るおどりを教師自身がやれていないと子どもには教えられない」「おどっていないなくても心はおどっている子”をみつける目、音楽教育とも共通するなと思います。
19. 5人の発表のもとを流れ続ける静かな豊かな温かい人間を育てるものが1つになっていました。先生がいいものを伝え続け、自分の体を通して学び続けたものが子どもに実感として伝わり、大きく豊かに育っていくのだと。
20. 5人の発表者どの方の内容もとてもよかったです。子どもとのかかわり教材としての中身の大切さ、取り組みの大切さ、それぞれの分野で共通したものがあるのがわかりました。若い方が二人も発表者の中にいたのも良かったです。この時期で大変ですが、毎年参加していい学びができてうれしいです。
21. 分科会もとてもおもしろくためになりました。愛媛から音楽教育の会 11号にとじられたチラシをみて、生まれてはじめてとんできました。

第4分科会

1. 様々な「フクシマ」に関する実践が報告されていてとても学ぶことができた。原発労働者の方々についてまた考えるきっかけになった！提案者の方々ありがとうございました。
2. 各レポートについてあと10分くらいでも討論時間があるといいと思います。色々聞けるのもいいですけど…。今日の分科会はそれなりに色々な学習ができてためになり、おもしろかったです。忙しい中きているのですが、興味深かったです。滝口先生に会えたのもよかったです。
3. 発表5本はあまりに多すぎの感がある。どれも内容は重たく、じっくり実践方法も聞きたいからだ。一人一人の発表を大切にするためにも十分検討いただきたい。実践交流から子どもの感想を聞くことで、今の子どもの考えや現在の社会の見方を知ることができた。このような交流からの討議の時間が欲しかった。

第5分科会

1. どんな国民が「教育」の中で育っていくことが望ましいのかが確かめ合える分科会だったと感じています。「生きる力」としてどんな「力(学力)」をつけるかについて、もっと議論できる時間があれば良かったと思いますが、報告が充実していたので仕方ないと思います。
2. 普段聞けない話が聞けて勉強になりましたし、今後こういう所に積極的に参加していきたいと思いました。
3. 私は無試験での高校入学は反対です。
4. 高校入試をやめよ。消費税は生活必需品はゼロにして、高級品は50%にせよ。そのほか、大変面白いことを学びました。
5. シティズンシップ教育の実践について多くの学校で普及できたらいいと思いました。小学校で保健教育の意義が知れてよかった。
6. 各報告の内容が豊富で時間が足りない。せつかくの報告なのでもっと論議できるとよい。分科会のレポート数をもっと少なくしてはどうか。
7. 高校教育、保健、入試、経済教育と本当に教育の本来の在り方を考えさせられました。中学でも高校でも大学でも職業教育と経済教育を導入すべきです。
8. 多様な角度から生きる力を育むことについて学ぶことができました。子どもを一人前の大人としていく取り組みは大変で、教育の課題の大きいことを実感します。

第6分科会

1. それぞれの取り組み方の違いがあるにもかかわらず、共に育つというテーマに向かったレポートであったと思います。特に大東高校の「性と生」「平和」「人権」という3年間におけるテーマでしっかりした教材研究で子どもたちの実態に即した授業に目をみはりました。他校にもひろがっていったら…と思います。まじめに生きる生徒たちが多くなるように思います。
2. 初めて参加させていただきましたが、とても話しやすく、充実した分科会でした。普段、他の教科や他の学校の指導を聞くことができないので、とても勉強になりました。(時間配分が悪く、エンカウンターで時間を長くとってしまってすみませんでした。反省しています。) もっと他の先生の発表をききたかったです。
3. 校種の違いをこえて交流ができたこと、たいへん有意義に思っています。
4. 教師の熱心さと忍耐力に支えられている生徒、かつ根は素直なところを必ず持っている生徒、これが4本のレポートと報告からジワーと伝わってきました。“仲間と共に育つ”そのテーマ内容そのままの分科会でした。
5. 初めて民教連に参加しました。色々な学習の場があることが新鮮でした。この集会が多くの人に伝わり、一般の人や若い方に学びの場として広がればと思いました。学生さんが頑張って参加されていてとても良かったです。
6. 「仲間と共に育つ」というテーマはやや便宜的で、各レポートの関係性がどうなのかな?と思いながら参加しました。ただ、やはり「教育」に関係したレポートだけあって子どもや生徒の成長の多様な姿が浮かび上がってくる分科会でした。初めて知る団体もあり、新たな発見がありました。
7. 難しくても勉強してみたいと思いましたが、とても楽しく勉強することができた。実際の教育現場でおこっていることを教師の視点からよりよくするための指導を知ることができて本当によかった。一つ一つのレポートが先生方の熱意があるもので、とてもおもしろかったです。4年生が作文に対して抵抗がないのはすごいと思う。実習先が4年生だったが、作文が苦手な子も多かったので参考にしていきたい。
8. 4本のレポートはそれぞれの領域独自の研究をしているわけですが、今日の分科会では、そのわくをこえて、大切なことを学べました。いずれも、子どもの現実、要求願いに即していること、そして事実から出発し、事実によって授業等が進められているからだと思いました。また、最も大切なことは、“学ぶ主体にきちんと、問いとして返している”という実践だということです。

競争をあまり教育をゆがめる

全国一斉学力テストの即時中止を!

広がる「学力テストあって教育なし」の実態



14年前から3度の勧告[国連子どもの権利委員会]

いこうに改善されない日本の教育制度

- ① 過度に競争的な教育制度によるストレスにさらされ、かつ、その結果として余暇、身体的活動および休息を欠くにいたっており、子どもが発達のゆがみをきたしていることを懸念する。(1998年)
- ② 教育制度の過度に競争的な性格が子どもの肉体的および精神的な健康に否定的な影響を及ぼし、かつ、子どもが最大限可能なまでに発達することを妨げていること。(2004年)
- ③ 高度に競争主義的な学校環境が、就学年齢にある子ども間のいじめ、精神的障害、不登校・登校拒否、中退および自殺の原因となることを懸念する。(2010年)

全国一斉学力テストでますます深刻になる「競争」



学力テストは「成績競争の風潮を生む」

全国一斉学力テストは、1961年に導入され、1966年には中止が決定されました。その理由は、テスト用の「準備教育」が横行し、テストの点数を上げることが教育の目的のようになったことでした。旭川地裁は、全国一斉学力調査が「教育基本法の『不当な支配』にあたり違法」と断じました。旭川学テ最高裁判決は「違法はない」としながらも「成績競争の風潮を生み、教育上必ずしも好ましくない状況をもたらし」「教育政策上はたして適当な措置であるかどうかについては問題があり」と指摘したのです。ノーベル賞作家の大江健三郎氏は、当時、「補習となにやら不明朗な工作に支えられた、学テ日本一。欺瞞の横行は、退廃をもたらす」(『大江健三郎 同時代論集3』より)と書きました。

全国一斉学力テスト（全国学力・学習状況調査）の即時中止を求める要請署名

2007年、多くの反対の声を押し切って導入された「全国一斉学力テスト」は、学校間の競争をあり、子どもたちを追いつめています。

2012年度の全国一斉学力テストが実施された後、全日本教職員組合が行った実態調査では、「朝学習の時間から学力テストの練習問題をするようになった」「当該学年だけ春休みの宿題を出すように教育委員会から指示があった」「授業を削っての過去問題や復習プリントで、正規の授業の進度が遅れた」「担任は、テスト後全ての答案用紙をコピーし、採点しなければならなかった」「テストの一週間前から教科書を使う授業はなくなりテスト練習だけになる」など、全国一斉学力テスト対策に躍起になる学校や教育委員会と、追いつめられる子どもや教職員の姿が浮かび上がりました。「平均点を上げる」「順位を上げる」ことを目標にし、教育委員会を締め付ける知事や自治体の首長も現れました。これに加えて、自治体独自の学力テストが行われるところもあり、学力テストにより競争に駆り立てられる学校の実態は深刻です。

国連子どもの権利委員会は、日本の教育について「高度に競争主義的な学校環境がいじめ、精神的障害、不登校・登校拒否、中退および自殺の原因になっている」と指摘しました。学力テストはこの状況に拍車をかけています。教育の目的は「人格の完成」(教育基本法)です。全国一斉学力テストの点数を上げることではないはずで、学校を「学力テストあって教育なし」という場にしてしまはいけません。

以上のことから、下記のことを強く要請します。

記

全国一斉学力テスト（全国学力・学習状況調査）をただちに中止すること

氏名	住所

5月3日の新聞を意見広告で埋めつくそう

核も武力も 命と生活を守らない!

竹島や尖閣諸島をめぐる国際摩擦が深刻です。素朴な国民感情を煽るような挑発の応酬と狭量なナショナリズムにもとづいた外交が無用で危険な軋轢^{あつれき}を生み出しています。日本ではあの悲惨な戦禍を忘れたかのような無責任な好戦論も飛び交い、これを奇貨として9条改憲論も声高になっています。

沖縄では、オスプレイの強行配備によって、日米政府への怒りが頂点に達しています。「沖縄差別を許すな」「すべての基地の閉鎖・撤去」の声をどのように実現していくべきでしょうか。

昨年3月に起きた東京電力福島第一原発事故は、いまだに収束のメドが立たず、福島県民だけでもいまなお16万人もの人びとが不自由な避難生活を強いられています。原発反対の声が全国でかつてない広がりを見せる中、政府は大飯原発を再稼働し、原子カムラ出身の原子力規制委員を任命し、「2030年代の原発ゼロ」を目標とする新エネルギー戦略の閣議決定をすらし送りしました。

20歳代の若者では非正規雇用が二人に一人となり、年金だけでは暮らしていけない高齢者が増えています。生活保護費を削減し、老人の医療負担を増やすなど、社会的に最も弱い立場にある人びとの生存権が脅かされています。



私たちは、憲法9条・25条実現の立場から、こうした様々な問題に対する市民の意見を2013年5月3日の憲法記念日の全国紙に意見広告として掲載します。実際に掲載する意見広告の文面は今後の状況の変化も考慮して決定しますが、現時点では裏面のように考えながら運動を進めてまいります。

今こそ市民が主権者として声を上げるときです。意見広告運動は、さまざまな事情で集会や街頭デモに参加できない方々でも意思表示ができる紙面上のデモです。今、多くの市民が首相官邸前を、国会周辺を埋めつくしているように、私たちの意思と名前を記載した意見広告で新聞紙面を可能な限り埋めつくしませんか？

みなさんの周りにも呼びかけ、仲間を増やして下さい。ぜひ賛同金をお寄せ下さい



市民意見広告運動 市民の意見30の会・東京

〒151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-29-12-305

Tel: 03-3423-0185 FAX: 03-3423-0266

Eメールアドレス: info@ikenkoukoku.jp

ホームページ: <http://www.ikenkoukoku.jp>

*電話は水・金・土曜日の13時～16時をお願いします。

- 点字のチラシもありますので、ご請求下さい。
- この運動は、いかなる政党・政治団体にも属さない市民運動です。

私たちはいま次のように考えます

◆いかなる軍事力行使も威嚇もするな！

竹島（独島）、尖閣諸島（釣魚島／釣魚台）など、離島の領有権をめぐる挑発の応酬が、不毛な対立と憎しみを煽り、いたずらに国際緊張を高めている。日本はいまこそ「武力による威嚇又は武力の行使」を禁じた憲法9条を生かし、日中共同声明（1972年）、日中平和友好条約（1978年）、日韓パートナーシップ宣言（1998年）に盛り込まれた平和・友好的精神に則り、時間を惜しまずどこまでも関係国間の話合いによる和解と合意形成に努めるべきである。

島の実効支配を演出するような相互の無用の挑発行為は直ちに中止し、事態の収拾と共同管理や共同操業なども視野に入れた新たな秩序作りの対話を急ぐべきである。

◆国際緊張に乗じた改憲の策動を許すな！

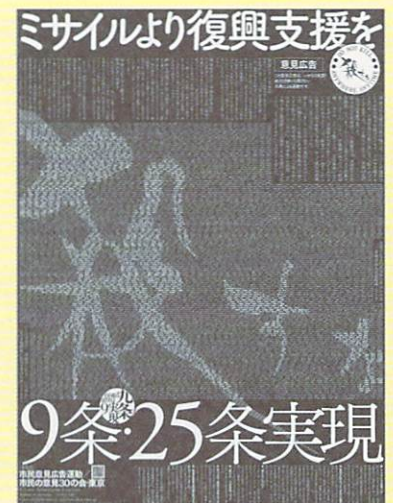
戦後レジームからの脱却を唱え改憲を主張して来た安倍晋三氏が自民党総裁に選出され、橋下徹日本維新の会代表は集団的自衛権の行使容認を明言している。政権与党の民主党内でも改憲を求める声は少なくない。憲法の理念がないがしろにされ、なし崩しの解釈改憲が進む中、憲法調査会の始動など明文改憲の可能性が現実味を帯びる事態となっている。隣接諸国との国際緊張を理由に危機感を煽り、9条をはじめとする改憲へと導く企みを許してはならない。

◆沖縄普天間基地を閉鎖し日米安保条約の解消を！

人口密集地に位置し、絶えず事故の危険をはらんでいる普天間基地の閉鎖は、一刻を争う人道問題である。ましてや機体の安全性に強い疑義が指摘されているオスプレイを配備するなど、許されることではない。私たちは「領土問題」「中国の脅威」を口実に「日米同盟」を強化することに反対する。軍事条約である日米安保条約は条文の定めに基づいて終了を通告し、対等な日米平和友好条約を締結しよう。



2012年掲載



2011年掲載



2010年掲載

◆原発ゼロの社会をつくろう！

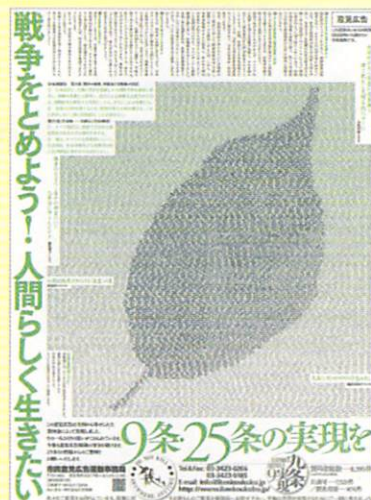
福島第一原発では依然として大規模事故再発のリスクを抱えたまま、放射能の大気中放出や大量の汚染水発生が続いている。地震国の日本に原発を建設することがいかに無謀なことか、ひとたび起きた原発事故がどのような結果をもたらすのか、誰の目にも明らかになったいま、なお原発を再稼働させることは未必の故意に等しい犯罪行為である。

政府はすべての原発の稼働を直ちに止め、被災者の早急な生活再建に最優先で取り組み。情報をすべて公開し、東電をはじめ政府・学者など原子力ムラは事故の責任をとれ。大間原発など原発の新設・増設の中止、核燃料サイクル事業からの撤退、高速増殖炉もんじゅを廃炉に。

◆社会的弱者が幸せに生きられる社会を！

高齢化・格差社会が進み医療・社会保障費や非正規雇用が増大する中、「税と社会保障の一体改革」の名の下に、210万人に達した生活保護受給者の命をつなぐ生活保護費の削減など、私たちの生活を下支えする福祉の切下げが進んでいる。

国は「震災復興」「防災」を口実に膨らむ被災地以外での公共事業費や原発研究費を削減し、憲法25条が保障する健康で文化的な最低限度の生活の実現に努めるべきである。



2009年掲載



2008年掲載

キリトリ線

00	東京	払込取扱票	
口座記号番号			
00110	5	723920	金額
加入者名		料金	備考
市民意見広告運動			
<input type="checkbox"/> 個人の賛同(1口2,000円) <input type="checkbox"/> 団体の賛同(1口4,000円)		<input type="checkbox"/> 意見広告の紙面への賛同者・賛同団体名の掲載	
* ご住所 〒		可・不可 (どちらかを○で囲んでください。いずれにも○がない場合は、可とみなして掲載します。)	
お名前(ふりがな)		(電話番号)	
日		附	
印		料	

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号 東第49436号)
これより下部には何も記入しないでください。

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	001105
	723920
加入者名	市民意見広告運動
金額	
ご依頼人	おなまえ
料	日 附 印
金	円
備考	

キリトリ線

◎氏名・団体名は楷書で、必ずふりがなをつけてください。
◎住所や電話番号は正確に書いてください。(公表することはありません)

私たちも意見広告運動に賛同します

池澤夏樹 (詩人、作家)

石川逸子 (詩人)

石川文洋 (報道写真家)

色川大吉 (歴史家)

上野千鶴子 (社会学者)

海老坂武 (フランス文学者)

大石芳野 (写真家)

太田修平 (障害連事務局長)

奥平康弘 (憲法学者・九条の会)

小熊英二 (社会学者)

小山内美江子 (脚本家)

加納実紀代 (歴史家・ジェンダー論)

鎌田 慧 (ルポライター)

小林亜星 (作曲家)

坂元良江 (テレビプロデューサー)

ジェームス三木 (脚本家)

鈴木一誌 (ブック・デザイナー)

平良 修 (牧師・沖繩)

高草木光一 (大学教授)

田中優子 (大学教授)

中北龍太郎 (弁護士)

中嶋哲演 (僧侶)

中山千夏 (作家)

なだいなだ (精神科医、作家)

西尾市郎 (平和をつくる琉球弧活動センター)

花崎皋平 (文筆業 哲学・社会思想)

樋口陽一 (憲法学者)

玄 順恵 (水墨画家)

松浦悟郎 (カソリック司教)

山口幸夫 (原子力資料情報室共同代表)

山内敏弘 (憲法研究者)

山村雅治 (山村サロン主宰)

湯川れい子 (音楽評論家・作詞家)

関西共同行動

原子力資料情報室

市民の意見 30・関西

人権平和・浜松

第九条の会ヒロシマ

たんぼぼ舎

日本カトリック正義と平和協議会

日本山妙法寺

ピース9の会

ピープルズ・プラン研究所

被爆二世の会

ほっかいどうピースネット

広告掲載は5月3日(憲法記念日) 賛同金は4月12日必着

意見広告運動は誰でも参加できます

周りの人にも勧めてください。チラシは無料でお送りしますので、必要枚数をご請求下さい。

掲載広告で訴える内容(予定)

平和外交の推進、9条改憲阻止、日米安保条約の廃止、原発ゼロ社会の実現、社会保障制度の拡充など。

広告の掲載紙

できるだけ多くの全国紙ほかへの広告掲載をめざします。

賛同金と期限

賛同金は、個人 一口2,000円

団体 一口4,000円

期限は、2013年4月12日必着です。

賛同金の送り方

このチラシの払込取扱票に必要事項を記入し、郵便局から送金してください。

名前掲載の可否

紙上広告に賛同者のお名前を掲載します。掲載を希望されない方は送金の際、払込取扱票の掲載「不可」を必ず○で囲んでください。掲載「不可」のご連絡がない限り原則として掲載しますのでご了承下さい。

広告掲載紙を事前に知りたい方へ

掲載予定紙は、2013年5月1日にホームページでお知らせします。4月20日までに返信先記入の往復ハガキをお送り頂いた方には、予定紙をご連絡します。

(ご注意)

・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付ATMでもご利用いただけます。

・この払込書をゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証等を必ずお受け取りください。

・この用紙による払込料金は、ご依頼人様が負担することとなります。

・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおとこと、おなまえ等は、加入者様に通知されます。

・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙

3万円以上

貼付

(印)

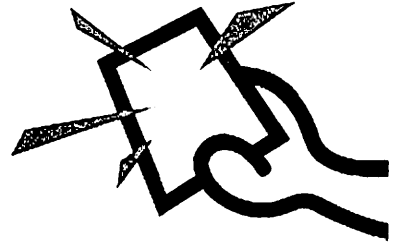
この場所には、何も記載しないでください。

東京地検に私たちの「本気」を伝えよう！

2月22日(金)

福島原発告訴団から

東京地検包囲行動のよびかけ！



福島原発告訴団は、2月22日(金)に東京地検包囲行動、東電本社包囲行動、霞ヶ関でのアピール、署名行動をよびかけます。

昨年の告訴以来、大手の新聞は、「立証は難しい」、「立件の壁が大きい」と書き、地検は、今年の3月に立件の可否を判断すると見通しと報道しています。

しかし、取り返しのつかない事故が引き起こされ、日本全国が放射能に汚染され、私たちが被曝させられたことは、まぎれもない事実です。

私たちは、強制捜査を含む厳正な捜査がされない中では、真にこの事故の原因を究明し、企業と政府の責任をただすことはできないと考えます。

このままでは、また同じ事が繰り返されてしまいます。

新しい政府は『原発ゼロ政策の見直し』『安全な原発を作る』と言い出しました。

国策と言うふ厚い壁に私たちは、生きる尊厳を奪われ続けています。

私たちの悲しみと怒りは消えることはありません。

東京地検に対して、強制捜査を含む厳正な捜査・起訴を行う事を求めます。

東電本社に対して、被害に対する正当な賠償、原発の廃炉を求めます。

子どもたちの健康と未来を守るために、新しい民主主義の社会を作るために、ご参加、ご支援をよろしくお願いいたします。

■2月22日(金)行動予定■

16:00~17:00 東京地検前に集合
包囲行動と「署名」提出行動
<各自、歩道を移動する>

18:30~20:00 霞ヶ関へ移動
金曜行動に合流。アピールと署名集め。

17:30~18:00 東電本社前に集合
包囲行動 <各自、歩道を移動する>

歴史の逆流を許さず 憲法を力に未来をひらこう

「建国記念の日」**反対**

2013年2・11集会

参加費 500円
(高校生以下無料)

とき 2013年2月11日(月) 午後1時半開会

ところ 日本橋公会堂ホール4階
中央区日本橋蛸殻町1-31-1(駐車場はございません)

東京メトロ 半蔵門線「水天宮前」駅 6番出口から徒歩2分
日比谷線「人形町」駅 A2出口から徒歩5分
東西線「茅場町」駅 4a出口から徒歩10分
都営地下鉄 浅草線「人形町」駅 A5出口から徒歩7分

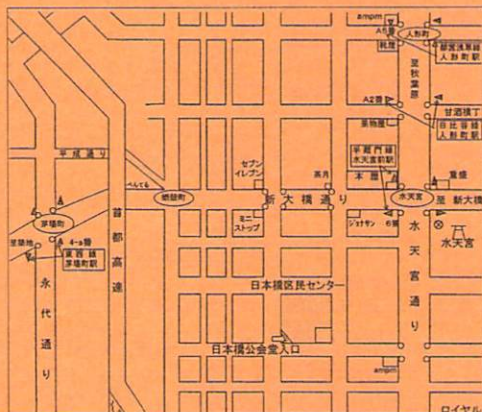
新段階の日本政治と憲法・アジア

渡辺 治(一橋大学名誉教授)

各分野からの発言一

原発、教育、沖縄・基地・安保、反貧困

- * 憲法改悪反対 許すな集団自衛権行使
- * 民意を反映する選挙制度を
国会の比例定数削減反対
- * 教育・教科書への反動的政治介入を許さず
子どもを大切にする教育を
- * 憲法25条を生かし、震災・原発被災者の
生活再建と社会保障の立て直しを
- * 「紀元節」復活反対
国民主権と思想・信教の自由を守ろう



主催 「建国記念の日」に反対し思想・信教の自由を守る連絡会
(2・11連絡会)

事務局団体 歴史学研究会(3261-4985)／歴史科学協議会・東京歴史科学研究会(3949-3749)

憲法会議(3261-9007)／都教組(3230-3891)／歴史教育者協議会(3947-5701)豊島区南大塚2-13-8

平民研連ニュース

No. 42

2012年12月15日発行

〒113-0034

文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9F

日本科学者会議 気付

TEL 03-3812-1472

衆議院議員の定数削減に関する民主・自民・公明三党合意に抗議する緊急声明

「近いうちに衆議院を解散する」と表明しながら、言を左右にして先延ばしにしてきた野田佳彦首相が、11月14日の衆議院での安倍晋三自民党総裁との党首討論で突如、自民党が衆議院議員の定数削減を確約すれば、「11月16日に衆院を解散してもいい」と公言し、急転直下、民主・自民・公明の三党は、16日、衆議院議員の定数削減に合意した。

衆参の選挙制度をめぐっては、この間、両院で各党協議がおこなわれ、民主党が提案する「衆院比例定数80削減」については、他の会派から民主主義に逆行する暴挙として一斉に批判され、「一票の格差」の是正と定数問題、選挙制度の抜本改革の三つを合わせて決着しようという流れで話し合いが続けられてきた。今回の三党合意は、こうした議論の積み重ねから逸脱し、議会制民主主義のルールを破壊する暴挙である。

今回の「三党合意」にともない行われた選挙制度の見直しでは、昨年3月と今年の10月に相次いで最高裁判所によって「違憲状態」と判断された衆参の「一票の格差」の是正を、衆院小選挙区の「0増5減」、参院選挙区の「4増4減」といういずれも「一票の格差」の是正にはほど遠い小手先の修正にとどめた。その一方で、「三党合意」は、衆議院の定数削減については、2013年の「通常国会終了までに結論を得た上で必要な法改正を行うものとする」として、言語道断にも定数削減の道筋を勝手につけてしまっている。

この間、民主党政権は、消費税増税にともなう「国会議員も身を切る改革」と称して議員定数の削減を画策してきたが、日本の国会議員数は、連邦制を採用しているアメリカを別として、イギリス、フランス、ドイツ、イタリアなどの先進資本主義国と比較するとむしろ少なく、主権者国民の声を国政に反映させるためには、増員が望まれこそすれ、削減することに合理的な理由はない。ましてや、「死票」を多く生み民意を正確に反映しない小選挙区制が中心の衆院選挙制度の中で、比例定数を削減することは、民意の一層の切り捨てにつながることは自明である。

私たち平民研連は、現在の衆参の選挙制度の歪みの温存と、民意の一層の切り捨てにつながる衆議院議員の定数削減を目論む今回の「三党合意」に対し強く抗議するとともに、民意が正確かつ公正に反映するものに衆参の選挙制度が抜本的に改革されることを求めて、広く世論を喚起し、共同の輪を広げることに尽力していくことをここに表明する。

2012年11月26日

平和と民主主義のための研究団体連絡会議(略称 平民研連) 幹事団体会議

新自由主義構造改革下における若者の「移行」の危機

「日本の教育—現状と課題を探る」第3回を開催

2012年12月11日、文京区アカデミー茗台

1990年代以降、グローバル化の進行下での日本企業の雇用戦略の転換は若者の「学校から仕事への移行」プロセスを大きく変容させ、長期化・複雑化・不安定化させた。2000年代以降になると「移行」プロセスの変容の悪影響が顕在化し、深刻な社会問題化となったため、政府の若年就労支援の政策が展開されるようになった。その教育版が文部科学省によるキャリア教育政策の推進であったが、それらの政策は基本的に新自由主義的であり、状況の改善にはほど遠い。若者の「移行」プロセスの変容を明らかにし、そこに生じてきた問題への政策的対応を批判的に分析し、また、進路指導の現場教師と移行世代の若者の問題意識をふくめて討論しようと、表記テーマでの平民研連シリーズシンポジウム「日本の教育—現状と課題を探る」第3回が、さる6月16日(土)に開かれ、20名が参加した。

基調講演「新自由主義構造改革下における若者の『移行』の危機—キャリア教育政策の批判的分析」で児美川孝一郎氏（法政大学教授・教育学）は、就職難だけが問題なのではなく、非正規雇用の拡大、「ブラック企業」の存在、「擬似的正社員」の増大などを背景にした高い離職率、高卒者のうちストレーター（就業継続）は4割強という現実から、長期化・複雑化・不安定化・個人責任化する「移行」の危機を訴えた。同氏は、そのような危機を招いたのが、「新時代の日本の経営」（日経連・1995）に導かれた企業の雇用方針転換—正社員をスリム化と非正規雇用拡大—とこれを支えた政府の労働力政策で、その上、高等教育政策における規制緩和—若年人口の減少にも拘わらず大学と大学生の急増で、狭まった採用の間口が若者が集中するというミスマッチの放置—が「移行」問題を深刻化させたとした。そして、新自由主義構造改革がもたらしたのが40歳を境にした二つの世代—いわゆる「逃げきり」、「乗り逃げ」世代と「ロスジェネ」以後の世代—のギャップであり、格差化、社会矛盾の押しつけの中で、「生き残り競争」に挑む少数と、「周辺化させた生活感覚、価値観」を持ち、「現実の『ずらし』戦略」をとる多数、という若者の対応や意識も形成されてきたとも述べた。フリーター問題、早期



講演する児美川孝一郎氏

離職等の社会問題化に対して採られた1990年代以降の教育政策、とくに、「若者・自立挑戦プラン」（2003年：内閣府、経産省、厚労省、文科省）をめぐって児美川氏は、「キャリア教育の基本方針」と謳ったには適応主義的で、「モデル校、拠点校づくり」、「戦略的重点」の「勤労観・職業観の育成」や「職場体験」なども職業能力形成にはほど遠かったこと、さらなる事態の悪化の下で、普通科高校におけるキャリア教育の強化、拡充など一定の手直しが「中教審答申」（2011）に反映したことにも触れつつ、何が問題かとして、新自由主義構造改革や労働市場の変容に起因する問題に、若者をテコ入れすることによって対応しようとする本末転倒の構図があり、「日本の雇用」と「新卒採用」の崩れの下で学校と

労働市場との接続を新たにどう創造するかという視点を据えるべきである、と問題提起した。

現場報告として、綿貫公平氏（全国進路指導研究会委員長）は、教育基本法「改正」前後のこの10年の教育「改革」の実態は“教師「改革」だった”とし、学ぶことが就労につながる雇用不安の下での進路指導の葛藤、社会として若者を支えることの重要性を訴えた。

また大学院生のMさん（心理学専攻）は、週3日の時間講師、1日のアルバイトをしつつ学位論文に取り組む自己体験と、政治、経済の状況や人間関係への否定的感情と自己肯定意識との狭間で何とかしたいと悩む若者・学生の実態を紹介、社会的ネットワークの構築に支えられつつ「移行」を目指す希望を語った。

参加者は少数ながら、充実した内容のシンポジウムとなった。（文責：松井）

平民研連第25回代表者会議アピール

東日本大震災と福島第一原子力発電所の過酷事故から1年4ヶ月をすぎても被災・避難者の生活・生業の再建は大きく遅滞し、一方では原発事故未解明のまま電力需給への不安を煽って原発再稼働が強行されました。民・自・公三党の談合による福祉、教育、雇用など国民的課題置き去りの消費税増税、JAXA法・原子力基本法の改悪、基地負担増強・恒久化につながる普天間への危険なオスプレイ配備、国民生活を破壊するTPP参加などの米国一辺倒、九条の毀損をねらう明文改憲や集団的自衛権の論議などなど、ゆるがせにはできない問題が噴出しています。

「政権交代」の破綻と裏切り、「二大政党政治」の失敗などを受けて、「大阪維新の会」などに期待を持たせようとする危険な動きもあるなかで、“閉塞”といわれる状況の打開には、平和と民主主義、基本的人権、健康で安全な生活の保障などを規定する憲法の原理での国民各層の幅広い連帯が、いまこそ必要です。その可能性は、連日の首相官邸包囲の輪、「さようなら原発10万人集会」、さらに広がる沖縄、岩国での抗議行動など、運動の新たなうねりにも感じられます。

平和と民主主義のための研究・運動団体が共通のテーマで集い、交流する場としての平民研連の役割は、結成25周年を迎えたいま、あらたに大きくなっています。この認識に立ち、それぞれの参加団体の独自の活動を創造的に発展させ、ともに連帯の輪を広げて前進することを、ここに表明します。

2012年7月28日

平和と民主主義のための研究団体連絡会議第25回代表者会議

平民研連第25回(2012年)代表者会議摘要報告

日時:2012年7月28日(土) 13:30~16:30 場所:文京区民スポーツセンター会議室

2012年代表者会議では、以下に概要報告するような議論とあわせて、佐川清隆氏(東京大学大学院)を招いての特別講演「再生可能エネルギーの可能性<原発ゼロへの展望>」を持ち、また、別掲のアピールを採択した。

2011年度活動報告

(1)シリーズシンポジウム「日本の教育:現状と課題を探る」の開催

新自由主義を克服し、また、とくに3.11以後のわが国のありかたを問う上で、その主体形成に不可欠な教育の課題を解明しようと企画したシリーズシンポジウム「日本の教育:現状と課題を探る」は、今期、以下のように2回開催した。ともに内容は好評だったが、第1回に比べて、2回目以降の参加者数は少なかった。

・第2回 2011年12月11日、文京駒込地域活動センター、参加11名

基調報告 地域主権・政治主導は教育をどこに導くか:中田康彦氏(一橋大学・教育社会学)

現場報告 「つくる会」教科書採択反対運動10年間の歴史:小関啓子さん(杉並の教育を考えるみんなの会)

現場報告 七生養護「こころからだの学習」裁判の経過:宝方喜代美さん(都立七生養護学校裁判原告)

・第3回 2012年6月16日、文京区アカデミー茗台、参加12名 本号ニュースに掲載

(2)声明などの対外的表明

平和と民主主義をめぐる情勢と課題に応じて、平民研連の意見を適時に発信する活動として、次の2件の幹事団体会議声明を発出した。

・普天間基地の無条件撤去を求め「武器輸出三原則」の見直しに反対する(2011年10月20日)

・大阪市における憲法違反の調査の即時中止を求める声明(2012年2月20日)

(3)「平民研連ニュース」の発行

第40号(2011年11月5日付,8pp)

第41号(2012年4月1日付,8pp)

2012年度活動方針

東日本大震災と福島第一原子力発電所の過酷事故から1年有余、遅々として進まない被災・避難者の生活・生業の再建、原発事故未解明のまま電力需給不安をあおった原発再稼働強行、民・自・公三党談合による福祉、教育、雇用など国民的課題置き去りの消費税増税の強行、さ

らには、日米同盟の「深化」と普天間基地問題、TPP参加問題などが、いずれもゆるがせにできない問題として現出している。

政権交代の破綻と裏切り、二大政党政治の行き詰まりなどの「閉塞」から、大阪維新の会などに期待を持たせようとする動向もあるなかで、問題状況の打開には、それを妨げてきた積年の枠組みを打ち破る力、平和と民主主義、基本的人権、健康で安全な生活の保障などを規定する憲法の原理を高く掲げた国民各層の幅広い連帯がいまこそ必要である。そのためにも平和と民主主義のための研究・運動団体が共通のテーマで集い、交流する場としての平民研連の役割は、いよいよ重要となってきている。この認識に立ち、参加団体の要求と実情を踏まえ、次の諸課題にとりくむ。

(1)活動の中軸とするシンポジウム

シリーズ「日本の教育:現状と課題を探る」を継続する傍ら;

・原発依存から脱却し、再生可能エネルギーへの政策転換をめざす。

・反動的な改憲策動を許さず、憲法九条を護り、活かす。

・日米安保体制から脱却し、日本・アジアの平和構築へ、

・選挙制度改悪に反対し、比例代表による議会制民主主義の確立

・新自由主義構造改革を克服し、暮らし、雇用、医療、年金、福祉を拡充する。

・財政再建と税制の民主的改革、内需主導の経済発展をめざす。

など、時宜に適したテーマでの企画も追究する。

(2)幹事団体会議の機能および参加団体との連絡・連携など、運営の改善と強化を図る。

(3)参加団体の研究と運動に資する連絡・交流紙として、「平民研連ニュース」を2回発行する。

(4)以上の課題を、参加団体のあらたな拡大を図りつつ、積極的に追究する。

再生可能エネルギーの可能性－原発ゼロ社会の展望

原発ゼロで電力は足りるか？

原発がすべて止まったこの夏の電力不足が心配されているが、去年夏なみの省エネを実施すれば電気をまかなえる(エネルギー環境会議による)。この夏の関西電力管内の需給見通しについて、政府・関電は 15%の電力不足(約 400 万 kW)と主張、しかし、これは猛暑だった 2010 年の最大消費電力を基準にした話で、2011 年を基準にすれば不足はほぼ解消する。また、現状でも需給バランスに余裕を持たせる方策は様々ある。たとえば天然ガス火力発電機の追加する、節電・省エネの追加対策を打つなどである。さらに、企業自家発電の活用、他系統からの融通、太陽光発電の導入加速で、トータルでは原子力発電の再稼働は必要ない。

原発ゼロと気候変動抑止を両立する考え方

気候変動(+3℃)で問題となるのは、数億～数 10 億人規模の水不足、数 10%もの生物種の絶滅、世界全地域での食糧生産性低下、そして熱中症や感染症の急増などである。これらが生活の根幹を脅かすことから、確実に産業革命以前から+2℃以内に抑える必要がある。つまり、1990 年比で 2050 年に少なくとも世界で 85～50%、先進国では 95%～80%削減しないと+2℃での安定化は困難である。

このことから、目指すべき方向性と対策として、速やかな原発からの撤退と温室効果ガス削減の両立がもとめられる。そのためにとるべきは「3レベルの対策」といわれるものである。すなわち；

第1レベル：活動量(生産量等)の縮小→大量生産、消費の経済活動の見直し、長時間労働の是正
第2レベル：活動量あたりの消費電力・エネルギー削減→機器効率改善・断熱等による省エネ、コージェネ化。

第3レベル：単位電力・エネルギーあたりの排出量削減→火力発電の燃料転換(石炭・石油→天然ガス)と再生可能エネルギーの爆発的普及。

これら対策の掛け算で温室効果ガスは削減できる。一例として $80\% \times 50\% \times 50\% = 20\%$ (+2℃安定化につながる8割削減)となる。

特に今後注目されるのは高効率天然ガス火力発電で、ガスタービン+蒸気タービンの複合サイクルでは熱効率 50%以上を実現でき、かつ出力調整が比較的容易という利点がある。

再生可能エネルギーの可能性

再生可能エネルギーには、太陽エネルギー由来

の太陽光発電・太陽熱発電・太陽熱温水利用、風力発電、(特に中小の)水力発電、バイオマス発電、熱利用、波力発電、潮流発電、海洋温度差発電などが、また、月との相互作用による潮汐発電、地球内部のエネルギー由来の地熱発電などがある。これらの内、太陽から地球に降り注ぐエネルギーは 173 兆kW(熱ベースで原発約 5000 万基分)と実に膨大で、人類の総エネルギー消費 160 億kWを太陽エネルギーの 0.01%の活用でまかなえる。

太陽光発電は、面積に比例した発電(パネル 1m²でピーク時 100～200W)で、約 1 万 km²のパネルで今の日本の総発電量と同程度が発電可能。晴れた昼しか発電できず、太陽が雲で隠れると発電量は2割程度になるのが欠点だが、夏のピークに威力を発揮できる。高いと言われる発電単価も発電モジュールの価格は 2008 年から 2 年間で半減している。

電力需給バランス維持の手法

多数の太陽光発電・風力発電が分散して導入されると、平滑化(ならし)効果で変動が緩和できる。既存の火力発電・水力発電は発電量が制御可能で(原子力発電は出力調整できないので、原子力がなくなれば他の電源による調整力が上昇する)、バイオマス火力発電も必要に応じた発電が可能。

太陽光・風力・地熱・中小水力発電も余剰時に発電量の抑制は可能で、あわせて原発用に作られてきた揚水発電を蓄電に活用することも可能。ちなみに、蓄電池の技術は急速に成長中で、スマートグリッド技術・消費電力制御の研究も進んでいる。

原発ゼロと気候変動抑止を 両立する社会へ

NGO「気候ネットワーク」のレポートによれば、原発の再稼働を行わなくても、2020 年には 25%節電(2007 年比)、再生可能エネルギー電力 25% の“3つの25”は同時に達成可能である。その際の再生可能エネルギー固定価格買取の費用は電気代の 1 割程度である。

再生可能エネルギーと経済・雇用

再生可能エネルギーは地域に分散して導入すれば地域経済の活性化に有効なので、中小企業の活性化につながる可能性は高い(現状は大企業中心)。また、これらのシステムは製造・設置や維持管理に人手が必要で、雇用創出効果が大きい(環境省シナリオで 2020 年に約 60 万人、ドイツは 2010 年で 36 万人)。全体として化石燃料輸入が減少す

れば、経済循環も改善されるだろう。

再生可能エネルギー推進に必要なこと

再生可能エネルギーの導入には野心的な導目標の設定が必要で、そのためには市民・地元企業が主体になれる制度がつくらなければならない。

2012年7月施行の固定価格買取制度で、買取額は事業コストに適切な利潤を上乗せして算定することとなったが、電力会社の買取拒否権を規制すべきで、地元住民・企業への優先的なアクセス権を保証する必要がある。また、設備導入のため各種アセスメント・権利(風力のバードストライク・騒音・景観、水利権、漁業権など)に関わる制度も必要となる。

原発利益共同体の問題

世間で「原子カムラ」と呼ばれている原発利益共同体というのは、経済界(電力、原発メーカー、建設、鉄鋼・セメント、銀行)が市場規模年間約2兆5000億円(『週刊ダイヤモンド』2011/5/11)の原子力産業に

収益源を求め、政界はそこからの膨大な献金(原発マネーの還流)と集票活動に依存し、官僚の天下り、マスメディアの収入依存(半分は原発企業からの広告)、おまけに御用学者の企業と膨大な共同研究・寄附講座、人的交流を通じて癒着などから構成され、これが原発とエネルギー問題のまさに怪獣となっている。

市民の世論と取り組みで 脱原発と再生可能エネルギー普及を

原発利益共同体は温暖化対策政策にも消極的であり、世論と運動がなければ、脱原発・温暖化対策は進まない。

昨年5月に現出した「稼働原発ゼロ」は、国民の運動の成果である。世論に反して大飯原発再稼働がなされたなか、原発ゼロと気候変動抑止の両立を目指し、市民の手で再生可能エネルギーの普及を実現することを呼びかけたい。

(要約文責:松井)

<予告>

平民研連シンポジウム

21世紀第3の転換期に突入した日本の課題

日時：2013年2月23日(土) ごご1時半から4時半まで

会場：文京区民センター 3C会議室(案内図参照)

問題提起講演：二宮厚美氏

二宮厚美氏：1947年愛媛県生まれ、
神戸大学名誉教授(経済学、労働・生活問題)

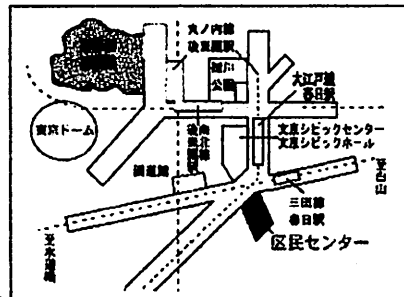
近著：

『新自由主義からの脱出 ―グローバル化のなかの
新自由主義 vs. 新福祉国家』新日本出版社(2012)

『誰でも安心できる医療保障へ ―皆保険50年目の
岐路 シリーズ新福祉国家構想』大月書店(2011)

『福祉国家型地方自治と公務労働』共著/大月書店(2011)

『新自由主義か新福祉国家か ―民主党政権下の日本の行方』共著/旬報社(2009)



主催：平和と民主主義のための研究団体連絡会議
〒113-0034 文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9F
日本科学者会議 気付 TEL 03-3812-1472

活動交流のページ

今回は終了した行事を各団体の HP から抜粋し、紹介します。

学校体育研究同志会:2012 中間研究集会

テーマ:運動文化をグループ学習で学ぶ
2012年5月12日(土)~13日(日)
豊田市産業文化センター

憲法理論研究会:12 月月例会

2012年12月15日(土)15時~17時
早稲田大学早稲田キャンパス 8号館 303室
報告:「象徴天皇制と憲法学」
横田耕一氏(九州大名誉教授/憲法学)

新日本医師協会:第 65 回総会・全国研究集会

2012年11月3日(土祝)中野サンプラザ
4日(日)東京芸術劇場など
放射能汚染を考えるシンポジウム
放射能汚染から子どもを守る
反核医師の会代表世話人 児嶋 徹氏
核燃料の終末
元青森県八戸保健所長 仁平 将氏
放射能汚染を記憶している乳歯
柏崎市吉野歯科医院 吉野信哉氏
故郷を襲った放射能という津波は引かない
一「復興」の文字は隔ってもさまよい続ける私たち
福島県楳葉町役場元職員 高原カネ子氏

特別講演「新しい創傷治療」

練馬光が丘病院 夏井 睦氏
分科会:小児保健・公衆衛生・歯科,精神科領域。
薬学関連領域,鍼灸領域

全国養護教諭サークル協議会:

第 42 回研究集会
2012年8月3日(金)~5日(日)
神奈川学園中学高等学校

大学図書館問題研究会:いま学校図書館を考える

一なぜ学校司書が必要か
2012年11月23日 日本図書館協会
①「専任・専門・正規」で配置されている学校司書の活動紹介
後藤敏恵氏(岡山市立高島小学校 学校司書)
宮崎健太郎氏(埼玉県立新座高校 学校司書)
② 学校図書館に「人」を置く運動を行っている地域住民の報告
渡辺和子氏(学校図書館・虹の会・所沢 代表)
③ 参加者の意見交換

地学団体研究会:第 66 回総会

2012年8月17日~20日
信州大学教育学部
学術シンポジウム
内陸盆地の形成と私たちの暮らし
I 盆地の構造と形成プロセス
II 地質災害と防災
科学運動シンポジウム
地学をいかに生かすか?-3.11 後の地学の教育と普及を考える-
総合討論

東京歴史科学研究会:9 月例会

東京で戦争/戦後責任を考える-戸山と沖縄・満州
・アクティブ・ミュージアム見学 女たちの戦争と平和資料館(WAM)
常設展・第10回特別展「沖縄の日本軍慰安所と米軍の性暴力-軍隊は女性を守らない-」
・陸軍軍医学校跡地周辺フィールドワーク
戸山人骨発掘現場・陸軍戸山学校将校集会所跡・陸軍技術本部跡・第六技術研究所跡など
(講師:軍医学校跡地で発見された人骨問題を究明する会 鳥居 靖氏)

日本民間教育研究団体連絡会:第26回交流研究集会

2012年12月2日(日)
和光小学校(東京・世田谷区)
午前・全体会/午後・分科会
講演「死の灰あびたマーシャルの人々は、いま
~核なき明日への福竜丸の航海とともに」
安田和也氏(第5福竜丸展示館主任学芸員・第5福竜丸平和協会事務局長)

文学教育研究者集団

ゼミナール 森鷗外「最後の一句」の印象の追跡
2012年11月25日(日)
北沢タウンホール(東京・世田谷区)

文化財保存全国協議会:講演会

「古事記」と古代史・考古学
2012年12月1日 奈良県文化会館小ホール
平林章仁氏(龍谷大教授):「古事記」から歴史を読む
小笠原好彦氏(滋賀大名誉教授):考古学から見た「古事記」と「帝記」と葛城氏

民主主義科学者協会法律部会

第 6 回基礎法学シンポジウム「巨大自然災害・
原発災害と法—基礎法学の視点から」

2012年7月7日 日本学術会議講堂
(日本学術会議法学委員会・基礎法学系学会連合)

2012年度学術総会

2012年11月16日(金)～18日(日)

南山大学名古屋キャンパス

唯物論研究協会:第35回総会・研究大会

2012年10月20日(土)～21日(日)

法政大学(多摩キャンパス)

シンポジウム「ポスト3.11を生きる理性」

植上一希氏(福岡大) 3.11後の若者の経験の
性質と「知」ならびに教育の課題について～大
学生と大学教育に焦点を当てて

池田成一氏(岩手大) 「文明化」の帰結として
の3・11

松元千枝氏(ジャーナリスト) 災害によるメディア
の発展

歴史学研究会:日本近世史部会 12月例会

2012年12月20日(木)18:00～

東京大学本郷C 赤門総合研究棟会議室

芹川真結子氏「近世後期真宗における教学統制権
と藩権力—尾張五僧の事件を事例に」

歴史教育者協議会:第64回千葉大会

2012年8月3日 習志野市文化ホール

4～5日 千葉市千葉大学

大会テーマ 地域と子どもに根ざす一大震災・原
発・地域再生を見すえて

I 全体会

基調提案 大震災・原発・地域再生を見すえて
地域と子どもに根ざす社会科教育を前進させよう
常任委員会副委員長 満川尚美氏

講演 「フクシマが問うもの／問われるもの」

高橋哲哉氏

II 分科会

第1テーマ 歴史と現代 9分科会

第2テーマ 地域・子ども・授業 16分科会

閉会集会 子どもの生活に根ざした授業で社会
科の学力を育む—映画『蟹工船』を使った高校
日本史の授業 浅尾弘子

歴史科学協議会:第46回大会

2012年11月17日(土)・18日(日)

早稲田大学戸山キャンパス38号館

全体テーマ 「世界史認識と東アジアⅢ」

現代日本政治の岐路と東アジア

渡辺 治氏「新段階に入った日本政治と東アジア」

戸邊秀明氏「現代沖縄民衆の歴史意識と主体性」
伝統社会における貧民救済

吉田伸之氏「幕末・維新期、江戸の周縁と民衆世
界」

菊池勇夫氏「飢民救済をめぐる公権力と地域社会
—天保飢饉下の八戸藩」

高橋孝助氏「中国における「救荒史」研究をめぐつ
て」

国民医療研究所:第21回シンポジウム

2012年11月23日

平和と労働センター・全労連会館ホール

記念講演「イレッサ訴訟における企業と国の責任」

吉村良一氏(立命館大法科大学院教授)

シンポジウム がんの薬物療法について考える

特別報告 福島雅典氏(先端医療振興財団・京
都大名誉教授)

患者・薬剤師・緩和ケア看護師・弁護士の報告

民主教育研究所:フォーラム

2012年12月8日 全国教育文化会館3階会議室

子どもたちの「学力問題」と進路選択

現代に生きる教養を問う(3・11以後の教育を考え
るその5)

1 報告

①被災地の学力問題・進路問題～福島からの報告
遠藤慎一氏(南相馬市・中学校)

②被災地の学力問題・進路問題～宮城からの報告
大木一彦氏(仙台市・中学校)

③「大川小の悲劇」と「釜石の奇跡」をどうとらえる
か?大人,教師,子どもの現代に生きる教養を問う
三上昭彦氏(明治大学)

2 交流と討論

全国老人福祉問題研究会:11月例会

2012年11月18日(日) 大正大学1号館

3年に一度の介護保険制度・報酬改定・「4月から
介護保険はどう変わったか」

介護保険制度と成年後見制度～成年後見制度
を検証する II 報告:河村健夫氏(弁護士)

「活動交流のページ」は、各団体のHPに公開さ
れた情報から、事務局で作成していますが、各
会からの積極的なご投稿を歓迎します。できれ
ば、メールに必要なファイルを添付してお寄せ
いただきたくお願いします。

宛先は当面下記の通りです。

fuchoso@mvj.biglobe.ne.jp